

未来に響をつなぐ！県内中小企業の礎に

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第079号
名称（型式等）	旧千葉県工業試験場（千葉県産業支援技術研究所）
所在地	千葉県千葉市若葉区加曾利町 889
設立（竣工）年	昭和 11(1936)年

選定理由

旧千葉県工業試験場は、県内工業の発展・育成を目的として昭和 11（1936）年に千葉市に発足されました。軽工業を主体として醸造業をはじめとする地場産業の育成機関の責務を担い、時宜に即した試験・研究及び相談・指導などを行い新しい技術を提供し、本県の工業発展の原動力の基礎を築く役目を担ってきました。消費者ニーズの多様化など中小企業を取り巻く情勢はとてもしばしば厳しいものがあるなかで、旧千葉県工業試験場に対する研究需要は年々拡大し、技術の高度化、複合化など課題が与えられ、中小企業と共に様々な問題解決に取り組んできました。

昭和 14(1939)年に千葉県醸造試験場と改称し、工芸部門は「工業指導所」として設置されました。地場産業の中でも醤油、味噌、清酒の醸造関係は千葉県の主力産業であったことから、創立から終戦にかけて乳酸菌応用酒母の開発研究、高周波利用による醤油製造技術の研究、日本酒の品質改良技術の研究など醸造関係の研究が盛んでした。昭和 20(1945)年以降は、家具の再利用技術に関する研究、糸くずやぼろきれ等繊維製品の再利用技術の研究、馬鈴薯澱粉による焼酎の製造試験、米の代替え利用に関する研究等、工芸、繊維、食品・醸造に関わる産業関係の他、天然ガスかん水の調査・研究、石油・石炭燃料の分析に関する研究などを積極的に行い、本県の発展に大きく寄与しました。

時代のニーズに応えるため、平成 15(2003)年に施設の充実や研究内容の構築の見直しを図り、千葉県機械金属試験場と組織統合し「千葉県産業支援技術研究所」として新しい出発をすることとなりました。そして産業構造の変化や多様化、高度化する技術課題に的確に対応するため、専門性の高い研究開発の充実を図り、中小企業や新規創業を目指す企業を技術面から支援する公設試験研究機関として日々技術開発・品質向上等の課題解決に取り組んできました。

特に近年は、地域の特性と産業集積を生かし、新しい視点に基づいた産業クラスターを形成するための産業振興ビジョンの策定を行っており、「新製造技術」「情報通信・エレクトロニクス」「バイオ・医療・福祉健康サービス」「素材・環境・新エネルギー」「食品」の 5 分野について、ものづくり産業の活性化を核として、企業や大学、研究機関のネットワークの強化や県の産業振興の推進に努めています。



現千葉県産業支援技術研究所



開発支援した製品事例

参考： 創立 50 周年記念誌 50 年のあゆみ 「昭和 61 年 1 月発行」